

助産雑誌 Back Number

◆ 2015 年 11 月号



特集

新しい視点で 保健指導を変えよう！

現在の保健指導は 19 年前の厚生省局長通知に基づいていますが、当時とは妊婦や家族の抱える課題が変化してきているため、見直しの必要性が出てきました。「親になること」と「いのちに向き合うこと」を支援する、新しい視点を取り入れた保健指導を特集しました。

◆ 2015 年 10 月号



特集

「特定妊婦」に どうかかわる？ 助産師ができる支援とは

出産後の養育について、出産前からの支援が特に必要な「特定妊婦」。本特集では、その概念と必要な対応、助産師による実際の支援の様子を紹介しました。妊娠期から、医療機関が保健・福祉と連携して支援することで、児童虐待の防止にもつながります。

◆ 2015 年 9 月号



特集

効果的な 実習指導をしよう！ 学校とともに学生を支援する

教えられる学生はもちろん、教える実習指導者も多くの学びを得ることができる助産学実習。本特集では、効果的な実習指導を行なうための実習指導者の心得をお伝えします。また、学生を送り出す学校側、学生を受け入れる施設側双方の取り組みも紹介します。

◆ 2015 年 8 月号



特集

妊娠高血圧症候群 2015 知識と支援を アップデートしよう！

近年、高齢出産の増加に伴い、妊娠高血圧症候群への対応が重要になってきています。本特集では、妊娠高血圧症候群の基礎知識や最新のエビデンスのほか、助産師による早期発見や予防教育の方法、軽症・重症別の妊産婦へのかわり方を紹介します。

◆ 2015 年 7 月号



特集

助産師が専門職として かわるべき母乳育児支援 「寄り添う」とはどうすることか

さまざまな調査結果から、母乳育児を希望する母親は増加しているものの実数には結びつかず、正しい情報が届いていない印象を受けます。そこで、「寄り添う」という言葉に注目し、母乳育児を選択する母親を増やすための、具体的な支援を考える特集としました。

◆ 2015 年 6 月号



特集

地域でつくる妊娠から 育児までの切れ目ない支援 今、注目の日本版ネウボラとは

厚生労働省が少子化社会対策の一環として 2014 年度より開始した「妊娠・出産包括支援モデル事業」。そのモデルとなったフィンランドの「ネウボラ」と、実際に切れ目ない支援を開始した自治体の事例を紹介し、助産師だからこそできる少子化対策について考えました。

◆ 2015 年 5 月号

特集

女性が主体的に産むための助産ケア

4 月号

産婦の身体の声をしる アセスメント能力を高めよう

3 月号

ペリネイタル・ロスのケアを考える

2 月号

助産師がしっかり実施したい新生児蘇生法 (NCPR)

1 月号

少子化、分娩施設の集約、就業場所の偏在 etc. から 助産師のよりよい未来像を描く！

◆ 2014 年 12 月号

キャリアを積むということ 助産師としての私の働き方

11 月号

『産婦人科診療ガイドライン—産科編 2014』の改訂ポイント解説

バックナンバーのお取り扱いについて

① 2013 年 11 月号以降の雑誌は、メットブック (TEL: 03-3817-5666) にて承ります。

② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。

株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11 TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539